

# 2023 年度 事業報告書

(2023 年 4 月 1 日から 2024 年 3 月 31 日まで)

公益財団法人 橋本財団

## < 2023 年度事業概要 >

2023 年度も、「共生社会の実現」を大きなテーマに掲げ、新規事業の立ち上げと既存事業の継続・発展を行った。今年度は新たに岡山県から認可を受け、4 つ目の公益目的事業として奨学金給付事業を開始した。新たな寄附を受け、助成活動等を通じその必要性を感じていた通信制高校進学への給付型奨学金を始めることができた。今後も、各事業や活動から知ることができた課題などに対して、積極的に新たな事業の立ち上げなどを検討をしていきたい。また、移民受け入れに関する調査研究では、送り出し国現地での状況調査などを行った。日本で得られる情報との比較等、現地における最新の状況を調査することができた。また、移民の受け入れについて、広く多くの方の考えるきっかけになることを期待し懸賞論文も実施した。このように全ての事業を通じ、多様で寛容な共生社会の実現に寄与していきたい。

### 「公益目的事業1 助成金交付事業」(約 5,290 万円)

助成金交付事業では、従来的一般助成の他、『岡山に住む外国人への支援活動』も引き続き特別枠として設けた。今回の一般助成では、特に郊外において地域の総合支援拠点の存在が重要と考え、それを期待できる団体・活動をいくつか採択した。地域の大切な資源として継続的な支援の方法も模索していきたい。特別枠は今回で3回目の募集となり、1回目の助成をきっかけに立ち上がった団体・活動も、その周知が進み、参加者の増加など成長・広がりをみせている。外国人と日本人の交流の場、日本語支援等、今後も積極的に募集・支援を行いたい。

### 「公益目的事業2 情報発信事業」(約 920 万円)

情報発信事業では、WEB マガジン Opinions の継続と、多文化共生イベントの拡大開催、懸賞論文の募集、インクル教育ワークショップの開催などを行った。多文化共生イベントは、スポーツ(フットサル大会)に加え、食(多国籍料理屋台)を通じた交流機会も設けるなど規模を拡大して開催した。また、このイベントの名称を『おかやま World Festa』とし、多文化共生のイベントとして継続的に開催し、地域に浸透させていきたい。新たな試みである懸賞論文は人口減少社会とその解決策のひとつである移民の受け入れについて、多くの方が知り、考える機会を提供したいとの考えのもと、周知・募集を行い、結果多くの反響・応募を得られた。今後も、人口減少をテーマに継続して開催したいと考えている。

### 「公益目的事業3 調査研究事業」(約 6,190 万円)

ソシエタス総合研究所では、新たに2名の研究員が加わり、合計8名となった。「インドネシアにおける送り出し機関の実態」を主調査に、「岡山県外国人介護士の経験」「各国の移民介護士の受

け入れ政策比較」等、移民の社会的統合や日本社会における貧困に関する調査研究を実施した。また、2022年度・2023年度中に実施・終了した調査研究について関連学会での発表、論文投稿を行い、その結果を順次公表した。2023年度中に実施したすべての調査研究の概要についても「2023年度ソシエタス総合研究所年報」としてホームページ上に公開するなど、積極的に発信をしていく。

#### 「公益目的事業4奨学金給付事業」（約30万円）

不登校児童生徒の増加とともに通信制高校を選択する生徒が増えているが、経済的な理由で進学を断念する者もいる。望む進路への応援のため、新たな公益目的事業として奨学金給付事業の開始を決定し、岡山県へ申請、認可された。初年度である今年度は、2024年4月の入学生を対象とし、奨学金の周知、提携校の募集、対象者の募集、選考、決定を行った。次年度は中学校からの新入生だけでなく、編入生・転入生も対象とし拡大・継続していきたい。

#### 「収益事業 - 調査・研究に関する受託事業」

前年度に申請をし、認可を受けた収益事業について、今年度は1件の調査受託を行った。一般財団法人サービス付き高齢者向け住宅協会から「サービス付き高齢者向け住宅の入居者満足度調査事業」の調査委託を受けを実施した。今後も、積極的に調査・研究の受託ができるよう広く周知をしていきたい。

#### 「管理部門他」

今年度は新たに橋本敬江氏より約4億9千万円相当の金融商品の寄附があった。寄附者の意向により利息収入は法人の公益事業及び運営に充て財団の事業の継続・発展に役立てる。また、今年度は、新たに事務局員を1名採用した。財団の事業に関する積極的な情報公開を行い、運営におけるより一層の透明性の確保を目指したい。

## (1) 事業の実施状況

### 1. 公益目的事業 公1「助成金交付事業」活動報告及び経過報告（約5,290万円）

#### 1) 2023年度福祉助成金（活動・研究）の交付

2023年度福祉助成事業は、2022年度に募集と選考を行い、以下の54団体へ合計4,960万円の助成金交付を決定した。（活動助成のうち1団体から辞退の申し出があり、最終的に53団体へ合計4,920万円への交付となった。）

## 2023年度（公財）橋本財団福祉助成金 助成対象一覧

◆ 研究助成 ( 4 団体、10,000,000 円 )

	研究機関	機関・グループ名	決定額
1	NPO法人 岡山県国際団体協議会	～世界から選ばれる都市“岡山”を目指して～	2,800,000
2	岡山大学・医療情報化診療支援技術 開発講座 学術研究院医歯薬学域 医療情報化診療支援技術開発講座	デジタルツインを用いた患者案内と、メタバースを用いた ジェンダー患者相談システムの開発	2,600,000
3	社会福祉法人 旭川荘総合研究所	障害者の権利条約推進に関する国際動向調査及び日本の福 祉現場における権利擁護の整備に関する研究	2,100,000
4	岡山大学 学術研究院 自然科学学域	寝台上を想定した足関節拘縮のための柔軟リハビリテーシ ョン機器の開発	2,500,000

◆ 活動助成 (50 団体、39,600,000 円 )

	団体名	助成内容	決定額
1	任意団体 無花果	「教育をとどける」ために相談環境と教育を提供する、 「無償のフリースクール」実現のための仕組み構築	3,000,000
2	NPO 法人あかね	不登校・引きこもりの子ども・若者・保護者のための居場 所、学習支援拠点の移転に伴う修繕整備	3,000,000
3	ピアサポート仲よし	知的障害者等の金銭管理の新たな仕組みづくりと普及	1,500,000
4	認定特定非営利活動法人オリーブの 家	DV 虐待被害者・貧困ひとり親家庭への相談支援と相談員 の養成	1,500,000
5	特定非営利活動法人おかやま入居支 援センター	空き家等を活用した対象者を限定しない柔軟なシェルター の提供と関係機関と連携した居住支援	1,500,000
6	一般社団法人ぐるーん	子育て世代の孤立防止、困難把握のための住民参加型家庭 訪問支援	1,500,000
7	特定非営利活動法人 Attane	不登校や発達障害など何らかの困難を抱える子どもや親の 居場所・相談支援	1,500,000
8	INE	外国にルーツを持つ、主に就学前の親子の孤立防止のため の居場所・ネットワークづくり	1,500,000
9	NPO 法人岡山きずな	路上生活者など生活困難な状況にある方への相談支援のス キルアップのための取り組み	1,000,000
10	株式会社ありがとうファーム	アートや表現活動によってインクルーシブ教育が実現可能 であることの検証と障害者の活躍推進	1,000,000
11	特定非営利活動法人CAPプロジェ クトおかやま	DV 虐待被害者等のシェルター保護と生活再建のための伴 走支援	1,000,000

12	認定 NPO 法人 D×P	主に岡山に住む生活困窮や不登校など様々な困難を抱えた若者への LINE を使った相談支援	1,000,000
13	NPO 法人ペアレント・サポートすてっぷ	成人期の障がい者の人生をより豊かにし、地域で楽しく暮らすための風土づくりを目的とした体験・交流の機会提供	1,000,000
14	特定非営利活動法人 入居困難者路上生活者支援あかり	路上生活者や生活困窮者などを対象とした緊急保護・一時保護・自立・地域共生に関する支援	1,000,000
15	特定非営利活動法人アートファーム	様々なハンディキャップや困難を抱えている方に、文化的な表現活動等を通じて元気や勇気を実感してもらうための取り組み	1,000,000
16	NPO 法人オカヤマビューティサミット	DV・虐待被害者等を対象としたシェルター保護と相談支援	1,000,000
17	特定非営利活動法人メンターネット	在留外国人向け日本語等学習支援とそれを可能とするコミュニティの創出	1,000,000
18	特定非営利活動法人やおよろず	精神障害者を中心とした緊急時のシェルターの提供と自立のための支援	1,000,000
19	(新) オンライン学び合い研究会 (旧) 国際教育研究所 (学校法人加計学園)	外国人児童のための留学生によるオンライン学び合い事業の開発	850,000
20	おかやま精神医療アドボケイトセンター	精神科病院へ入院中の方の尊厳と人権を擁護するためのアドボケイト活動	800,000
21	合同会社 BOKKA うえまつリースクール	学校の環境が合っていないと感じている子どもたちの居場所・学びの場所の提供	800,000
22	一般社団法人子どもの家運営委員会	何らかの困難を抱える学生らによる生活困窮下の子どものための学習支援	800,000
23	株式会社ラピス 倉敷外語学院	ウクライナ難民の受け入れ事業	700,000
24	認定特定非営利活動法人ポケットサポート	岡山県内で病氣療養する高校生世代の支援拡充事業	700,000
25	総社インターナショナルコミュニティ&桃太郎インターナショナルアソシエーション	総社市在住外国人を中心としたメンバーによる外国人防災マニュアル作成 (8か国語)	600,000
26	合同会社ダフェプロジェクト	多様な国籍のメンバーが主体となった多文化共生イベントの企画・運営	600,000
27	みみっとの会	社会的に孤立しがちな聴覚障害者の社会参加のきっかけとなる漬物製作・販売の仕組みづくり	550,000
28	対話による支援を学ぶ会 岡山 茶屋町在宅診療所	支援者の支援の質の向上のための、対話による支援「オーブンダイアログ」普及啓発	500,000

29	特定非営利活動法人おかやま UFE	統合失調症やうつ病など精神障害のある人が気軽に立ち寄り相談できる場所「よるカフェうてんて」の提供	500,000
30	一般社団法人ほっと岡山	広域避難者の社会的孤立解消・防止を目指す社会関係資本再構築事業	500,000
31	特定非営利活動法人輝くママ支援ネットワークぱらママ	医療的ケアが必要な子どもとその家族のコミュニティ形成・防災意識啓発	500,000
32	月下舞踏会M	何らかの障害や困難を抱える方たちとの舞踏を通じた自己表現活動の実施	500,000
33	特定非営利活動法人 まちづかい塾	精神医療における化学薬品だけに頼らない人薬（ひとぐすり）という考え方を広めるためのシンポジウムの開催	500,000
34	しもついでシーブレッジ株式会社国際交流プロジェクト	下津井国際交流マルシェを中心とする技能実習生等在留外国人との交流支援	350,000
35	公益社団法人 岡山県難聴者協会	会計処理の適性・円滑化のための会計ソフト購入	350,000
36	全国ギャンブル依存症家族の会 岡山	ギャンブル依存症無料相談会の開催	300,000
37	チーム岡山まぜごはん	岡山県在住の外国人・技能実習生との日本文化体験と地域住民との交流	300,000
38	NPO 法人 岡山日本語センター	主に岡山県内の日本語学習支援を必要とする外国人へのオンライン日本語学習支援	300,000
39	特定非営利活動法人ジャパンハーベスト	フードバンク活動を通じた生活困窮者支援と、世界のフードバンク活動支援のノウハウ提供や普及、並びに行政機関との連携	450,000
40	一般社団法人 S G S G	岡山に住む外国ルーツの子どものための定期的な居場所の提供	300,000
41	NPO 法人 チーム響き	朗読劇などのイベント開催を通じた障がい者の社会参加促進	300,000
42	倉敷市中途失聴・難聴者協会	難聴者・中途失聴者のための手話講座の開催	300,000
43	全国パーキンソン病友の会岡山県支部	イベント時に利用できる車いすの購入と会報作成のためのプリンター購入	300,000
44	HOME18 岡山	18トリソミーの子どもたち写真展とそれに伴うワークショップ開催等	300,000
45	特定非営利活動法人子ども家族生活サポートセンターいとでんわ	ひとり親世帯への相談支援、交流支援等	300,000
46	NPO法人津山きびの会	ピアサポーターによる引きこもり相談支援の実施	300,000
47	岡山県難病団体連絡協議会	難病患者のための健康情報の発信など、ヘルスリテラシー向上のための講座開催等	250,000

48	日替りママプロジェクト	若年女性の望まぬ妊娠を防ぐための相談支援	200,000
49	家族ぴあ・岡山	精神患者の家族によるピアサポートのためのスキルアップ研修実施等	200,000

## 2) 2024年度 福祉助成金（活動・研究）の募集、選考

2024年度の福祉助成事業について、以下の通り募集・選考を行った。

### (1) 募集概要

	活動助成	研究助成
募集期間	2023年9月1日（金）9時～10月31日（火）17時	
助成額	1件あたり300万円まで	
助成対象期間	2024年4月1日～2025年3月31日 （研究助成は、長期の場合3年程度を目途に複数年助成あり）	
募集対象等	※参照 財団WEBサイト「2024福祉助成募集要項」	

### (2) 応募状況

	活動助成	研究助成
応募数	78件 特別枠 岡山に住む外国人への支援活動（10） 一般枠（公的支援の枠外での）社会福祉活動（68）	17件 移民に関する調査研究（1） 他社会課題についての調査研究（14） 福祉関連用具の開発（2）

### (3) 選考結果 採択団体は以下一覧の通り

	活動助成	研究助成
採択数（採択率）	55件（71%）	9件（53%）
助成額	39,924,800円	13,880,000円

### (4) 2024年度 福祉助成金の選考について

#### 活動助成の部

#### ① 選考委員会について

・開催日：1回目 2024年1月22日AM、2回目 2024年1月24日AM

- ・場 所：橋本財団 事務所 会議室（岡山市北区幸町8-20）
- ・司会進行：事務局
- ・選考委員：3名（敬称略・50音順）

石田篤史／公益財団法人みんなでつくる財団おかやま 専務理事  
 岩淵 泰／岡山大学地域総合研究センター副センター長・准教授  
 松原龍之／岡山経済新聞 編集長

## ② 選考方法について

以下の方法で選考を行った。

### 1. 各委員による事前評価

- ① 採点（基本評価＋プラス評価＋マイナス評価）
- ② 助成額

### 2. 選考委員会での審査

- ① 各委員の事前採点をもとに1件ずつ検討、全体の順位付け決定
- ② 事務局の予算をベースに、採択ラインを決め、助成額を決定

※ 評価点については以下を基準に採点を行い、委員の合計点を得点とした。

### 1. 基本評価（5点満点）

- ・対象者が明確等、募集の趣旨に合っている
- ・対象とする社会課題の困窮度・緊急度が高い
- ・しっかり計画が立てられており、実現可能性が高い

### 2. プラス評価（プラス1点 or プラス2点）

- ・ある分野の支援において、希少性が高い
- ・積極的に寄付を集める等、自立に向けた努力がみられる
- ・今までにない新しい取り組みを行っている

### 3. マイナス評価（マイナス1点 or マイナス2点）

- ・団体や事業の継続性に不安がある
- ・申請書類の精度が低い等、団体への信頼度が低い

※採点に関する補足事項

#### ○特別枠（岡山に住む外国人への支援活動）

- ・新たな活動への期待値を少し含める
- ・特別枠の申請と一般枠の申請の評価が同点の場合は特別枠を優先採択する
- ・特別枠としての予算・採択数は設けていない
- ・日本語の学習は重要な課題。かつ日本語学習のモチベーション維持・向上

のためには、日本人との交流機会も必要

○一般枠・居場所について

都市部以外で地域拠点としてふさわしい団体があれば対象とする（総合的な窓口の役割ができる。常設又は開催頻度高い、利用者・支援者が多い、他の団体や公との連携ができている等。） ※岡山市等には、課題ごとに支援団体が存在するが、郊外ではアクセスが難しい。様々な課題に対応できる地域の総合的な窓口の役目は大きい。

### ③ 選考の結果について

上記の通りの選考にて、54 団体へ 39,386,800 円の助成案が決定した。

#### \* 各選考委員の総評

（石田委員）

「誰ひとりとして排除されることなく、望む場所で共に生きる共生社会の実現」のコンセプトのもと予算や財団の助成方針を考慮し、採択事業を決定した。特に活動エリアや分野を重視し、制度のはざまや公的支援が届きにくいエリア、緊急性を考慮し、審査を行った。費用としては、ランニングコストより備品や情報発信に必要なツールなど一度の助成で効果がでるものを重視するとともに、積算根拠が明確であるか妥当であるかを審査した。橋本財団の助成事業は用途制限もほとんどなく使いやすい助成だからこそ、申請団体の皆様には助成を受けた後に、どのように活動を継続していくかという視点でも事業や予算を考えていただきたい。今年度の申請は、ほとんどの事業を採択してもよいと思うほど質が高く、同時に問題が複雑化し、公的サービスだけではまかなえない現状に民間福祉活動の重要性をより一層感じた。

（岩淵委員）

申請団体は、岡山県の多様な福祉とまちづくりの状況を表している。委員は、それら団体から地域の貧困や課題、そして、挑戦を審査した。外国人の生活支援を中心に、若者の居場所や教育、障がい者の支援、シェルター事業など幅広い応募があった。審査会では、都市部に限定せず、岡山県各エリアでの支援を念頭に置いた。また、継続団体については、前年度の変化について、また、初めて応募する団体については、これまでの活動を踏まえ、実現可能性を検討した。助かったのは、申請書類だけでは分からない点を、事務局がヒアリングでカバーしてくれたことだ。橋本財団は、地域にとって必要であるが、行政が届かない分野に対し、また、民間団体

が持続的に展開するために必要なものを、助成だけではなく、アドバイスも含めて支援する。委員は、全国に展開する市民のネットワークを紹介しながら、地域課題の複雑化を確認し、丁寧な審査を行った。

(松原委員)

今年の選考会は、非常にスムーズに感じられた。昨年に比べて幾つかの選考に対する基準、もしくは財団の指針が明確になりつつあることが所以ではないだろうか。アート活動との線引き、地域・エリアとしての重要性、事業発展とその見込みなど。助成先に法人設立を促すであるとか、用途についての相談など、助成金の提供だけでない育成についても強く感じることができた。一方でこれまで助成してきた団体に対しての不採択を出すことは勇気と決断が必要ではあったが、基準や指針を持つことでできたとも言える。また助成先の成長を見越しての決断だと考えると、助成金を出す団体としての立ち位置が少し社会と近くなったように感じ、大きな成果だと考える。また、特に注目すべき新ジャンルのような助成がなかったこと、300万円のような高額な助成がなかったことは残念ではある。

## ・研究助成の部

### ① 選考委員会について

- ・開催日：2024年1月31日 10:00-12:30
- ・場 所：オンライン開催/橋本財団 事務所 会議室（岡山市北区幸町8-20）
- ・司会進行：事務局
- ・選考委員：3名 （敬称略・50音順）  
田中共子／岡山大学大学院社会文化科学研究科 教授  
秋山裕治／川崎医療福祉大学副学長  
則次俊郎／美作大学 地域福祉研究所 所長

### ② 選考方法について

以下の3段階で選考を行った。

1. 各委員による事前評価：審査基準を参考に、助成相当、状況により助成相当、助成非該当の3段階に評価を行った
2. 各研究計画内容について評価の高いものを中心に研究計画について検討
3. 事務局の予算をベースに全体を見直し、助成相当研究を再選考

なお、研究の実施につき一部確認事項があり、確認後、再度審査委員に採択について了承を得るというステップを行った。

\*審査基準では、研究の意義、研究の独創性、研究の目的、研究の方法、過去の研

究履歴、研究費用、その他の7分野について評点ポイントを設定している。さらに審査会において、着想のユニークさ、現場へのインパクトの大きさ（実態調査であり、社会への活動に貢献するもの）、他資金の獲得が困難を審査基準に加味し検討した。

### ③ 選考結果について

上記の通りの選考にて、9団体へ13,800,000円の助成案が決定した。

#### \* 採択の傾向について

共生社会の実現という助成テーマに沿っており、研究者と実践家が協同し、現場の実践をベースとし、実践に役立つ成果をあげるために課題を明確にした実践的課題研究であることを採択の最重要基準とし、過去の調査研究や活動をベースとし発展させている社会実装の可能性が高い調査研究が採択された。実践の場に大きなインパクトが期待できる研究、全国的で取り組みの少ない、独自性・新規性の高い研究、他資金の獲得が難しいと考えられる団体の調査研究が優先的に採択された。開発については、社会実装を目指したスタートアップの開発研究が採択されている。研究費用については、大学等研究機関に所属のものは、PC等基本的にすでにあると想定されているものは対象外に、また、旅費の割合が高い調査研究について、基本的に主研究者のみのものを対象とした。

### 3) 福祉助成金周知のための活動

行政主催や他助成団体との合同資金説明等へ参加した。当助成金の周知だけでなく、助成事業に関する様々な情報共有など、他助成団体とのより一層の連携にも繋がった。

### 4) 助成団体の交流会や団体訪問などのフォローアップ活動と助成金周知活動

8月に当財団の助成先や助成に関心がある団体を集め交流会を行った。他団体を知り繋がるきっかけになった、活動資金の収集やスタッフの確保などの共通する悩みやノウハウについて共有できた等、好評を得た。恒例事業として継続したい。また、助成活動の遂行状況確認のため、助成金で開催されるイベントへの参加や団体への訪問などを行った。期間終了後には、団体へ収支報告・成果報告書の提出を求め、成果報告書についてはホームページにて紹介した。

### 5) 特別助成 ミャンマーからの来日者支援事業 対象者の募集、選考

ミャンマーは、政治的・経済的な不安定さが続き、若者の将来のキャリア育成も不透明で

ある。一方、日本は人口減少により労働不足の状況が将来に渡り継続すると予想されている。両国の状況を鑑み、ミャンマーの若者に対し、岡山県でのキャリア形成を希望するものに対し、経済的支援を行う事業を実施したいと考えた。特別助成枠として、前述の事業の実施事業者を公募した。

募集対象は、特定技能の資格を有した岡山で就労予定のミャンマー人の来岡を支援する事業、活動、募集期間は2023年6月13日～7月10日、助成額1件当たり20万円～300万円、事業期間は2023年9月1日～2025年8月31日（助成金支給日：9月1日）とした。

ミャンマーでマイクロファイナンス事業を実施するワラム株式会社から応募があった。ミャンマーからの来岡者に対する奨学金事業の提案である。ミャンマー国内で来日のための日本語学習、就労のための技術学習のための学習費用について融資を受けたものが、来岡して就労する際、その融資額の半額を奨学金として受け取る事業である。

2023年8月8日財務運営会議にてワラム株式会社の事業採択を決定した（2023年9月1日～2025年8月31日、助成額300万円）。

## 2. 公益目的事業 公2「情報発信事業」活動報告及び経過報告（約920万円）

### 1) WEB マガジン Opinions の運営

「書きたい人のためのwebマガジン」は週2回のペースで掲載を継続した。新たな寄稿者も継続的に増え、その分野や内容はさらに広がりを見せている。当財団ソシエタス総合研究所研究員の記事も定期的に掲載し、研究員にとっての発表の場のひとつとなっている。

### 2) 第1回懸賞論文の実施

人口減少社会とその解決策のひとつである移民の受入れについて、多くの方が知り、考える機会を提供したいとの考えのもと、懸賞論文の募集を行った。結果多数の応募と反響を得ることができた。今後も継続して実施したいと考えている。

#### 【募集概要】

- ・テーマ 「日本は移民を受け入れるべきかどうか」（15000字以内の論文）
- ・募集の主旨

2018年、当時の安倍元首相は、「我が国は移民政策を取ることは考えていない」と述べた。一方で、技能のある外国人を一定期間限定で受け入れるとも言っている。この政策は外国人の移住は好ましくないが、外国人労働力は必要であるとするものだ。一見矛盾しているが、実際問題として2019年、特定技能制度がスタートし、コロナ禍にも関わらず、国内の

人手不足を反映して、外国人労働者は増加している。このような日本のダブルスタンダード政策は限界に来ていると考えられるが、一体将来において日本は積極的に移民を受け入れるべきかどうか、そして、その根拠についての明確な主張を伴った論文を期待する。

・募集期間 2023年4月1日(土)～9月30日(土)  
・表彰 最優秀賞 1名 賞金50万円、優秀賞 1名 賞金30万円、佳作 2名 賞金10万円

・選考委員 (50音順)

井上 登紀子 / (公財)橋本財団 ソシエタス総合研究所 主任研究員

是川 夕 / 国立社会保障・人口問題研究所 国際関係部 部長

斉藤 善久 / 神戸大学 大学院国際協力研究科 地域協力政策専攻 准教授

【募集結果】45本の応募があった。

【選考】・事前選考 事務局により2次選考に進む11本を選出

・1次選考(12/4) 選考委員会により、優秀作4本を決定

・最終選考(1/15) 選考委員会による面接を行い、順位決定・各賞の検討

【選考結果】優秀作4本のうち、1本を以下の通り決定した

佳作 岡崎広樹氏『「ゆるやかな共生」の構築による「成熟社会」の実現』

※WEB マガジン Opinions へ掲載

※ 第一回懸賞論文 選考委員会 総評

(選考委員 井上登紀子)

今回は佳作が1名という結果だった。多くの論文は「日本は移民を受け入れるべきかどうか」ではなく、「日本は移民をどのように受け入れるべきか」に焦点が当てられていた。全体的に、論文の内容は、既存論文にもある、また、一般的な主題に関する情報をまとめており、新規性や独創性が不足している印象を受けたが、岡崎広樹氏の『「ゆるやかな共生」の構築による「成熟社会」の実現』は、自身の自治会での活動やその結果についての論考であり、より具体的で経験に基づいたアプローチであったため独創性のある論文だった。テーマに対する深い洞察に基づき、一般論に留まらず、経験や具体的な事例に基づくアプローチ方法の工夫や、独自の視点を強調し、既存論文との違いを明らかに示すことが必要だと感じた。また、ダブルスタンダードのような論考も一部みられた。論理的な展開や一貫性についても注意が必要だと感じた。

(選考委員 是川夕)

今回の公募では数多くの意欲的な論考が寄せられた。ただ、論理の運びなど、論文として

の完成度については不十分なものも多くみられた。本テーマは他の様々なイシューと比しても、客観的なエビデンスにアクセスすることが難しい。そのためか、応募された論考の多くもメディア等で紹介される議論をそのまま引き写したようなものが多く、議論の前提となる事実を批判的に吟味した上で、独自の論理を展開していたものはまれであった。

今回、最優秀、優賞の該当はなく、佳作を1点のみとしたのはそういった事情によるところが大きい。同テーマは今後、日本社会においてより一層、重要なテーマとなっていくことは必至である。今回の企画がそういった議論の一助となることを願っている。

(選考委員 齊藤善久)

今回は第一回ということで、次回以降の基準になることを意識しつつ、とりわけ慎重に審査を行った。受賞論文は公開され多くの人々に読まれるものであるため、少なくとも日本語を母語とすると思われる応募者の論文については、一定程度以上の日本語力の有無も審査対象とした。ただし、難解な専門用語を並べることでむしろ一般の読者に伝わりにくくなっている場合や、論者自身が言葉の意味を十分に理解していないと思われる場合にはマイナスに評価した。論述の構成については、多少の甘さには目をつぶった。他方、論旨の一貫性や具体性、資料の選択の妥当性、視点の独自性などを重視した。また、偏見や差別意識に基づく記述を含むものは早々に除外した。総じて、ネット上の情報を要領よくまとめた学生レポートのような内容や、オリジナリティーは有っても論者の既出の論考の焼き直しと思われるようなものは高く評価しない、ということで、本懸賞が今後目指す水準や方向性がある程度見えてきた審査となった。

### 3) 多文化(外国人)共生イベントの開催

#### (1) 外国人交流イベントの開催

外国人と日本人の相互理解・交流のきっかけづくりとしてのイベント開催。今年度は、従来から行っている職場内での交流を目的とした職場対抗フットサル大会に加え、職場に限らずより多くの方が楽しめるスポーツ(フットサル)と食(多国籍料理)を楽しむイベントを企画、実施した。言葉の壁を越えて楽しめるスポーツと食を通じた交流は、多くの参加者から好評を得ることができた。また、4回目のイベントより『おかやま WORLDFESTA』という名称にし継続的に開催。岡山の多文化交流イベントとして地域に根付いていくことを期待している。

#### 第3回外国人共生イベント フットサル大会

開催日時 2023年4月16日(日) 13:00~16:30

会場 岡山ドーム(岡山市北区北長瀬表町1丁目1-1)

参加者数 約 180 名（参加者 12 チーム 120 名、観戦者 60 名）  
参加費 1 チーム 1000 円（スポーツ保険代）

#### 第4回外国人共生イベント『おかやま WORLDFESTA』フットサル大会

開催日時 2024 年 1 月 20 日（土）  
フード（多国籍料理屋台出店） 11:00-16:00  
フットサル大会 12:00-16:00  
会場 岡山ドーム（岡山市北区北長瀬表町 1 丁目 1-1）  
来場者数 約 1000 名（うちフットサル参加 20 チーム 200 人）  
参加費 1 チーム 1000 円（スポーツ保険代）  
出店料 1 店舗 1000 円

#### 4) インクルーシブ教育に関するワークショップの開催

2023 年度のインクルーシブ教育ワークショップは 1 回のみで開催となった。第 4 回目となる今回は、大阪北部で約 50 年も行われているフルインクルーシブ教育について知り学ぶ会とした。豊中市の公立小学校では医療的ケアが必要な子やどのような障害をもっている子どもでも同じ教室で学んでいる現状について、その根底にある考え方や実践など、実体験を交え講師のお二人からお話をおうかがいした。参加者からは、日本でこのような取り組みが、50 年も続けられている状況に驚いた等、多くの反響をいただいた。

#### 第4回目 2023 年 7 月 16 日開催

「なんでもこーい！」大阪府豊中市のインクルーシブ教育

講師① 上田哲郎さん

（社会福祉法人蒲公英会 理事長。NPO 法人 C I L 豊中主任相談支援専門員。

豊中市障害者自立支援協議会 会長。国障年豊中市民会議幹事長。大阪府豊中市生まれ、豊中市育ち。小学校 2 年生まで養護学校で育ち、その後通常の学校への転校を経験。「共に学ぶに終始一貫！」をテーマにインクルーシブ教育に関する講演等を精力的に行なっている。

講師② 山森一希さん

筑波大学大学院人間総合科学学術院博士後期課程在籍。大阪の南の方に生まれ、幼稚園から高校まで地域の学校で過ごす。教育における障害児の排除と包摂に関する研究を行なっている。

開催方法： オンライン参加（ZOOM）

参加費：無料

### 3. 公益目的事業 公3「調査研究事業」の活動報告及び経過報告（約6,190万円）

#### 1) ソシエタス総合研究所 研究活動について

2023年度は、共生社会をテーマとし、移民の社会的統合、貧困に関する以下の調査研究を実施した。

##### 移民の社会統合について

2023年度は「インドネシアにおける送り出し機関の実態」を主調査に、「岡山県外国人介護士の経験」「各国の移民介護士の受け入れ政策比較」等を実施した。

インドネシアの送り出し機関の現地調査は、インドネシア労働省や地方の労働局、技能実習生を中心とした送り出し機関等、ジャワ島全土において約50機関のインタビュー調査を実施、現地の来日に関する関係者に日本の外国人労働者の受け入れ制度の課題や相次ぐ受け入れ制度の変更についての考えを確認している。2023年12月に岡山国際交流センターにて中間報告会を実施、2024年3月に中間報告書をソシエタス総合研究所ホームページ上に公開している。2024年夏まで合計約60機関のインタビュー調査を実施、2024年度冬に日本の外国人労働者の受け入れ制度への提言を含めた、最終報告書をまとめる予定である。

2024年度は、主にインドネシアからの来日者（来日希望者）の日本の受け入れ制度への印象や実態の調査、ネパール・ミャンマーにおける送り出し機関の実態を中心に調査研究を行なう予定である。

##### 調査研究結果の公開について

2022年度・2023年度中に実施・終了した調査研究について関連学会での発表、論文投稿を行い、その結果を順次公表している。また、2023年度中に実施したすべての調査研究の概要について、「2023年度ソシエタス総合研究所年報」としてホームページ上に公開している。

#### ● 2023年度学会誌掲載論文一覧

- 相川真穂 『単一民族観』の変遷 - 新聞論説記事の分析をもとに - : 年報カルチュラル・スタディーズ 11号 (2023)
- Akiyoshi, K. Rights awareness of temporary migrant workers in Japan: Disbelief in the realisability and deservingness of pregnancy rights. Social Theory and Dynamics (STAD), Vol. 5. (2024)
- Holzapfel, N. The Decay of Japan's Labour Market: New Immigration Politics and Their Implications on the National Labour Shortage. The International

Journal of Social Science and Economic Research, 9(1). 1-28. (2024)

- Aikawa, M. Akiyoshi, K. Examining the Content of Disaster-Related Information Disseminated to a Migrant Population. A Case of Municipal-Level Information Dissemination in Japan. The International Journal of Information, Diversity, & Inclusion, Early Access (Winter/Spring 2024), 36-60 (2024)

### 貧困について

2022年度に引き続き、2023年度も「生活困窮者への携帯電話提供」を継続して実施している。当事業は、生活困窮者の支援団体を通じて携帯電話の提供が行なわれており、2023年度は新たに3団体の契約増加、合計12団体の利用となった。携帯電話の貸出は延べ44名である。通信困窮者に対する直接的な公的支援策はなく、2024年度も同様に事業を継続する予定である。通信困窮は情報格差を生じさせる要因の一つであり、社会参加を阻む。「生活困窮者への携帯電話提供」事業を通じ、実態を把握・公開し、公的支援を検討するための資料とすること、また、「生活困窮者への携帯電話提供」事業を運営したい団体への実施するための資料とすることを目指す。

### 2) ソシエタス総合研究所 関連事業について

2022年度に実施した「岡山県外国人在留者の生活上の相談対応についての調査」等から、在留者が生活相談を行なうにあたり相談先を見つけることが困難である実態が浮かび上がったため、岡山県の在留者対象の相談先紹介のサイト「Links」を開設、多言語で岡山県の相談機関を検索できるようにした。2024年度は、労働・妊娠を中心に在留者にとってトラブルになりやすいトピックについて知っておくべき日本の制度等を解説した多言語の簡易な説明資料を作成する予定である。

### 3) 研究所メンバーについて

2023年度は新たに2名の研究員が加わり、合計8名で調査研究活動を行った。

- ・主任研究員 井上登紀子（専門・keyword／高齢者福祉、居住福祉、ソーシャルワーク）
- ・研究員 松田郁乃（専門・keyword／貧困、生活困窮者、社会福祉政策・制度）
- ・研究員 秋吉湖音（専門・keyword／強制移住、ジェンダー、移民）
- ・研究員 相川真穂（専門・keyword／社会心理学、抑圧、差別、社会的規範）
- ・研究員 Niklas Holzapfel（専門・keyword／社会構造・システム・制度、福祉国家、経済・社会開発）

- ・ 研究員 坂入悦子（専門・keyword／障害者、多様性、セクシュアリティ、高齢者）
- ・ 研究員 Andi Holik Ramdani（専門・keyword／移民、宗教、マイノリティ社会、多文化共生、異文化理解）
- ・ 研究員 Waode Hanifah Istiqomah（専門・keyword／移民、移住労働者、国際社会学）

2023年度にて松田郁乃、秋吉湖音、相川真穂の契約終了、2024年度は新たに3名の研究員の採用を予定している。

#### 4. 「公益目的事業4 奨学金給付事業」（約30万円）

今年度、新たに認可を受け奨学金給付事業を開始した。（通信制高校・サポート校へ通うための給付型奨学金『ユースサポート』）。初年度である今年度は、2024年4月の入学生を対象とし、奨学金の周知、提携校の募集、対象者の募集、選考、決定を行った。1期生（2024年4月支給）の募集へは、12名の応募があり1次選考（書類選考）、2次選考（面接）を経て、10名が決定した。（2名辞退：通信制高校への進学をしないことになったため）。2次選考に合格した奨学金候補者10名については、志望校へ合格した時点で正式に奨学生となり、各校と連携し、奨学金給付の手続き等を行った。（実際の奨学金給付は次年度の予算）

（1）奨学生募集 2023年9月1日～10月20日

（2）対象 15歳～19歳までの生活困窮状態にある家庭の生徒（原則として世帯収入350万円程度以下）。※進学先はユースサポートの対象校に限る

（3）選考

1次選考（書類選考）／選考委員（50音順）

石田篤史／公益財団法人みんなでつくる財団おかやま 専務理事

森分夕紀子／公益財団法人橋本財団 常務理事

※アドバイザー

野村 亜矢子／岡山市こども福祉課 課長補佐

武 裕子／岡山市こども福祉課 主査

2次選考（面接）／選考委員（50音順）

橋本敬江／合同会社HSコーポレーション 代表社員

森分夕紀子／公益財団法人橋本財団 常務理事

## 1. 収益事業 「調査・研究に関する受託事業」の活動報告及び経過報告

一般財団法人サービス付き高齢者向け住宅協会から委託を受け、「サービス付き高齢者向け住宅の入居者満足度調査事業」の調査を実施した。44 都道府県・484 住宅に入居している高齢者約2 万名に対し、主に、「自由な生活の確保」、「プライバシーの尊重」、「自己決定の尊重」、「安心・安全な生活の確保」について、サービス付き高齢者向け住宅での生活の現状とその満足度についての質問紙調査を実施している。2,873 件（192 住宅）の有効回答（14.4%）の集計結果について①入居している高齢者を対象とした報告書、②192 件のサービス付き高齢者向け住宅運営者を対象とした、入居者満足度の住宅ごとの特徴と改善点についての報告書、③一般財団法人サービス付き高齢者向け住宅協会に対して、住宅運営者への運営支援への提案報告書の作成を行った。受託額は 4,859,815 円であった。

### (1) 管理事項の概要

#### (1) 役員等に関する事項

2024 年 3 月 31 日現在

役 職	氏 名	職 業
理事長	橋本 俊明	(社福)敬友会 理事長、合同会社 HS コーポレーション 会長、 (公財)橋本財団 理事長
常務理事	橋本 夕紀子	(公財)橋本財団 常務理事、合同会社 HS コーポレーション 執行 役員
理事	齋藤 信也	岡山大学学術研究院 保健学域 教授 医師
理事	田中 共子	岡山大学文学部長、岡山大学学術研究院 社会文化科学学域 教 授
理事	田中 紀章	岡山大学医学部 名誉教授 医師
理事	松岡 順治	岡山大学学術研究院ヘルスシステム統合科学学域 元 特任教 授、岡山大学病院 緩和支援医療科 医師
監事	西山 明幸	辻・本郷 税理士法人 税理士
監事	馬場 幸三	弁護士法人太陽綜合法律事務所 弁護士
評議員	高木 晶悟	(株)トマト銀行 取締役社長
評議員	橋本 眞智子	(財)操風会 岡山リハビリテーション病院 医師
評議員	橋本 陽介	原後綜合法律事務所 弁護士
評議員	橋本 健二	(特医)自由会 副理事長、(社福)敬友会 副理事長 医師
評議員	宮島 啓人	(医)洗心堂 宮島医院 院長

評議員	東 俊宏	(特財医)協愛会 倉敷シティ病院 院長 医師
評議員	宗友 良憲	(医)公仁会 姫路中央病院 名誉院長
評議員	矢吹 章	臨床心理士・公認心理師 高校カウンセラー

(2) 理事会及び評議員会開催に関する事項

① 理事会

本年度における理事会は、次のとおり8回開催した。

1. 開催日時：2023年6月9日(木) 17時

開催場所：citta (岡山市北区幸町8-20)

決議事項：

- ① 2022年度 決算、事業報告に関する承認の件
- ② 新たな公益目的事業「奨学金給付事業」開始・申請に関する承認の件
- ③ 特別公募助成(ミャンマー支援事業)事業開始に関する承認の件
- ④ 特別公募助成(ミャンマー支援事業)選考委員承認の件
- ⑤ 就業規則等 制定に関する承認の件
- ⑥ 特定費用準備資金等取扱規程 制定に関する承認の件
- ⑦ 特定費用準備資金 設定に関する承認の件
- ⑧ 評議員会開催に関する承認の件

報告事項：

- ① 理事長の職務の報告
- ② 常務理事の職務の報告

2. 理事会の決議があったとみなされた日：2023年6月29日(木)

開催方法：書面決議

決議事項：

- ① 代表理事 選任に関する承認の件
- ② 常務理事 選任に関する承認の件

3. 理事会の決議があったとみなされた日：2023年7月24日(水)

開催方法：書面決議

決議事項：

① 寄附受入れに関する承認の件

4. 理事会の決議があったとみなされた日：2023年9月8日（金）

開催方法：書面決議

決議事項：

- ① 奨学金給付事業（具体的な内容について）承認の件
- ② 定款変更に関する承認の件
- ③ 選考委員会規程変更に関する承認の件
- ④ 奨学金選考委員の選任に関する承認の件

5. 開催日時：2023年11月30日（木）17時

開催場所：橋本財団 事務所（岡山市北区幸町 8-20）

決議事項：

- ① 2024年度 奨学金ユースサポート対象者決定に関する承認の件
- ② 外国ルーツの子どもへの日本語及び教科学習支援検証事業実施に関する承認の件
- ③ 2024年度福祉助成金 選考委員の選任に関する承認の件
- ④ 第一回懸賞論文 選考委員の選任に関する承認の件

6. 理事会の決議があったとみなされた日：2024年1月31日（水）

開催方法：書面決議

決議事項：

- ① 第一回懸賞論文選考結果に関する承認の件

7. 開催日時：2024年2月22日（木）17時

開催場所：citta（岡山市北区幸町 8-20）

決議事項：

- ① 2024年度福祉助成（活動・研究）選考結果に関する承認の件
- ② 2024年度事業計画・予算に関する承認の件
- ③ 選考委員会規程 改訂に関する承認の件
- ④ 評議員会開催に関する承認の件

8. 理事会の決議があったとみなされた日：2024年3月22日（金）

開催方法：書面決議

決議事項：

- ① 賃金規程改訂に関する承認の件

② 評議員会

本年度における理事会は、次のとおり2回開催した。

1. 評議員会の決議があったとみなされた日：2023年6月21日（水）

開催方法：書面決議

決議事項：

- ① 2022年度 決算、事業報告に関する承認の件
- ② 新たな公益目的事業「奨学金給付事業」開始・申請に関する承認の件
- ③ 理事改選に関する承認の件
- ④ 特定費用準備資金等取扱規程 制定に関する承認の件
- ⑤ 特定費用準備資金 設定に関する承認の件

2. 評議員会の決議があったとみなされた日：2024年3月11日（月）

開催場所：書面決議

決議事項：

- ① 2024年度事業計画・予算に関する承認の件

(3) 行政庁への申請・届出等に関する事項

申請・届出等 年月日	申請・届出等事項	備考
2023年6月30日	2022年度事業報告等の提出	岡山県知事
2023年9月11日	公益目的事業変更認定申請「奨学金給付事業」 開始に伴う変更申請	岡山県知事
2024年2月9日	変更認定後の定款及び登記事項証明書の提出	岡山県知事
2024年3月14日	2024年度事業計画等の提出	岡山県知事

(4) 寄附金に関する事項

寄附日	寄附者	寄附の内容	寄附の目的
2023年7月	橋本敬江	外国債権 約4億9,125万円 ※2023年6月現在評価額	基本財産として受け入れ、その運用益である利息収入を、公益目的事業及び法人運営に必要な管理費に充てるため。

(5) 行政庁指示に関する事項

特になし